



旧青山家



旧赤松家記念館

地域づくりの参考に！「みんなと倶楽部」研修会

地域材をふんだんに使って建てられた青山家から外を見れば、辺りは杉やヒノキの山また山。青山家のガイドをさせていただいた人たちは自然や歴史について学び、山や川を「地域の宝」と考えているようです。元々、運

木造家屋が立ち並ぶ大都市へと進化した江戸では、屋根板として使用された柿（こけら）板が大人気。江戸の材木問屋から掛塚の廻船問屋が注文を受けると、山元は柿板を製材し、角倉船に積んで掛塚まで運び、掛塚湊から江戸へと出荷されて行きました。

そして、江戸時代末期になると、横山村の青山善右衛門は自ら柿板を加工する製材所を開設し、仲間たちと廻船も共同所有。江戸との取引を行なうようになったとのこと。



旧青山家



旧赤松家記念館

記事 齊藤朋之

地域を元気にしようと思った私たち「みんなと倶楽部 掛塚」。その中心は掛塚の旧廻船問屋・津倉家の保存管理ですが、そのためには、郷土の歴史遺産でもある旧津倉家住宅をどのように活用すべきかについて勉強する必要があります。そんな目的を持ち、5月21日(土)、浜松市天竜区横山町の旧青山家と磐田市見付の旧赤松家記念館へ研修見学に出かけました。

先ず訪れたのは旧青山家。青山家は江戸時代後期、当主の青山善右衛門が、現在の天竜区龍山町にあった幕府直轄地の山林で林業を始めたのがルーツ。家屋の屋根に使う柿（こけら）板を製造して江戸に運び、天竜川流域の木材流通システムを構築して「材木王」とも呼ばれたとのこと。

現存する母屋が建てられたのは明治三十三年(1900)年頃とされ、木造2階建ての旧家を購入したのは同市浜北区にある浜名梱包輸送の鈴木鐵男会長。同社が費用を負担し、改修するまでにかかった時間は1年半。古いままで維持管理するのではなく、床や柱の表面が削られたおかげで明るく蘇り、建築当時の雰囲気を感じられます。

流れが急で岩場や瀬などの難所が多い天竜川では、中世までは丸太を組んだ筏が主流。やがて慶長十二年(1607)、徳川家康の命を受けた豪商角倉了以によって天竜川が開削され、川舟路が完成しました。

木造家屋が立ち並ぶ大都市へと進化した江戸では、屋根板として使用された柿（こけら）板が大人気。江戸の材木問屋から掛塚の廻船問屋が注文を受けると、山元は柿板を製材し、角倉船に積んで掛塚まで運び、掛塚湊から江戸へと出荷されて行きました。

そして、江戸時代末期になると、横山村の青山善右衛門は自ら柿板を加工する製材所を開設し、仲間たちと廻船も共同所有。江戸との取引を行なうようになったとのこと。

みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka



MINNATO CLUB
ESTD.2016

第25号

P1 地域づくりの参考に！
「みんなと倶楽部」研修会
イベント情報

P2 まち歩き、そして旧津倉家見学会

P3 西小児童の考えた未来の竜洋を元気にするためのアイデア紹介！

P4 ちよつといーけ？
中町 大手秀司さん

ちよつといーけ？

コロナ禍のため取材はマスクを着用し、距離を十分とってお話を伺いました。

大手秀司さん 89歳(中町)

砂町の「大手自転車屋」の創業者「大手伊吉さん」は三人のお子さん、常蔵さん、敏郎さん、千代子さん(恵まれましたが奥様(こうさん)を病気で亡くされました。その後病気のこうさんの手伝いに来ていた妹の「なかさん」(旦那様を亡くし子供「永さん」を連れて帰ってきていた)と再婚され泰治さん、秀司さん、道子さんが生まれました。



― 大手家の家業について教えてください ― 母親(なかさん)はミシンが大好きでよく洋服を作っていました。その時は自転車の他に洋品や呉服もやっていて足袋や下着なんかも売っていましたし、お客さんから頼まれたら反物の仕立てもしてましたね。

― 学生頃の過ごし方 ― 子供の頃は近所に野球チームがあつて学校から帰ってくるとみんなよくやっていました。小学校の水泳大会は天竜川にコースを作つてやったり、戦時中には模型飛行機を長く飛ばす大会もありましたね。尋常小学校から国民学校に変わると軍事教練があつてね、点呼とか行進とか軍隊がやるような事を小学生の頃からやらされたわけ。軍国主義の教育だったから厳しかったですよ。

― 掛塚祭りに参加した思い出 ― 兄(泰司さん)も大好きで祭りの日には一晩中お酒を飲んで家の前のドブで寝転がっていました。(笑)昔は御飯屋の解散が夜中の二時とか三時ってこともあったからね。

― 掛塚祭りに参加した思い出 ― 僕が世話係の時は費用がないから屋根とか提灯掛けを若者が塗っていましたね。僕は屋台の綱の縛り方を覚えてただけですけどそれはいつも世話係が苦労してたからね。僕が覚えてからはお祭りの前日になると「大手さん綱を締めて」って家まで呼びにきてね。今はもうちゃんとしてる人たちがやってくれています。

― 掛塚祭りに参加した思い出 ― 平成二十一年、「掛塚屋台囃子保存会」が『全国税理士共栄会地域文化賞』に選ばれ賞金が授与されました。

― 掛塚祭りに参加した思い出 ― その際に尽力されたのが当時全国税理士共栄会の会長及び同会文化財団の理事長を務められていた大手泰司さんで、大好きだった故郷の祭りを一生懸命にPRしてくださいました。その翌年、掛塚祭りに帰省するはずだった泰治さんが急逝されました。突然の訃報に駆け付け

た埼玉の葬儀会場では野球少年だった頃の秀司さんと砂町辺りの子供がたくさん写った写真が映し出されていたそうです。

― 家族が戦地へ ― 長男の常蔵さん(復員されました)と次男の敏郎さんそれぞれが出征される時の写真が残っていました。出征前夜に開かれたお別れ会の席で敏郎さんは「最後にもう一度お囃子を聴いて行きたい」と言われ、急遽駆けつけた友人達の奏でるお囃子を黙って聴いたあと「これでよし！」と・・・翌朝家族や町の人たちに見送られ出征されましたが昭和二十年五月に沖繩で戦死されました。

― 掛塚青年団のお話 ― 当時は各地域ごとに青年団がありました。活動内容は体育活動、文化活動、奉仕活動で秀司さんが団長だった頃の団員数は竜洋町で三百人、掛塚だけでも百人以上いたそうです。

― 掛塚青年団のお話 ― 体育大会は小学校のグラウンドで各町から選手を出してやるわけ。予算がない時は賞品も文房具とかの些細なものでした。文化祭では劇団を作つて劇を披露したり「のど自慢」みたいに歌曲曲を歌つたりして楽しかったですね。帝国館でも青年団主催の上映会をやつて「青い山脈」とか有名な俳優の映画を放映しました。木戸銭(子ケツト代)も安かったからたくさん人が来たんですよ。奉仕活動は草刈りもやりましたしドブ掃除は年に二回はやっていましたよ。催しをやるときは案内状を書いてガリ版で一枚一枚刷つてね、各事業所(企業)を回つて寄付を集めたんです。青年団の活動は大変だったけどやりがいもあつて楽しかったし良い思い出です。

― 林邸の裏庭には(廻船問屋・静岡銀行の基礎を作つた平野又十郎の生家) ― 昔は門がいつも開いていて自由に出入りして来たから子供たちの遊び場だったんですよ。(大手家の)家のお蔵には林さんのお婆さんが住んでいて「秀ちゃんおいで、お茶飲みに来なつて声を掛けてくれて・・・。お蔵の中は畳が敷いてある所に小さな部屋がありました。でも釜戸は無かったから表(蔵の外)で七輪でお湯を沸かししてましたね。



大手自転車屋



昭和十八年 大手敏郎さん出征の写真

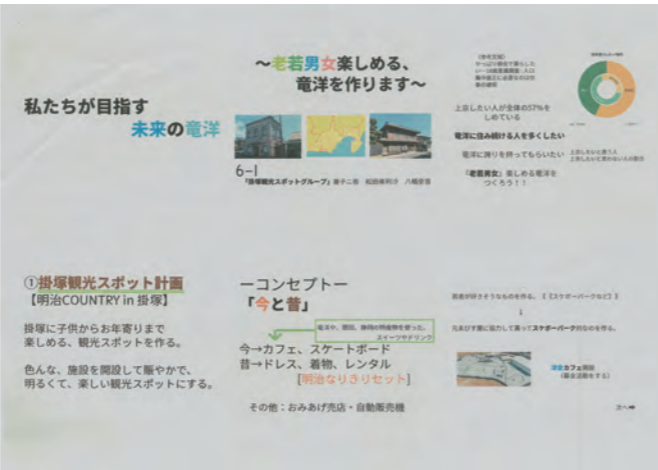
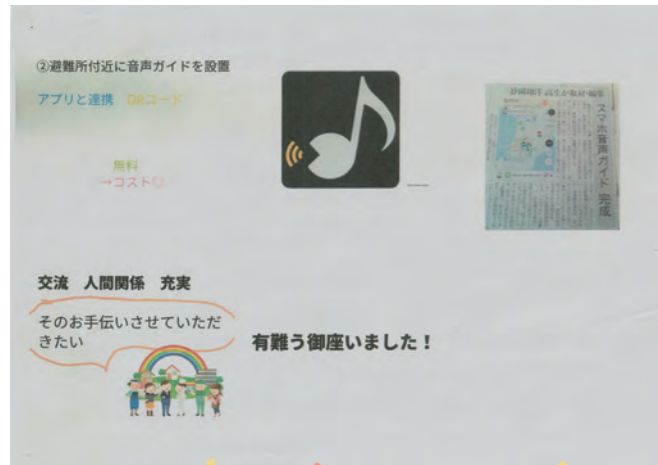
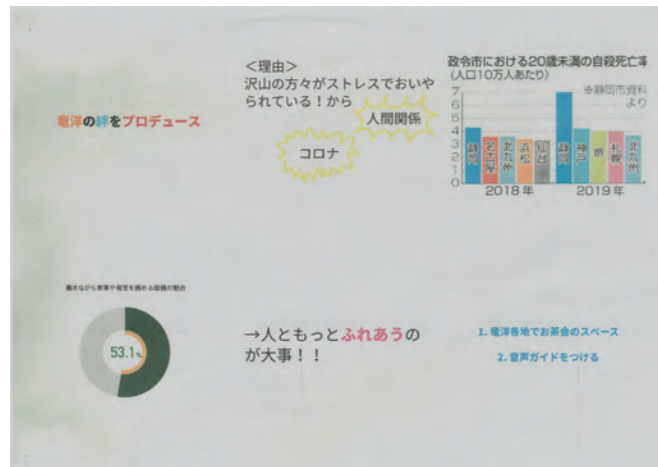


ミシンが大好きだった母親のなかさん

掛塚のために秀司さんは地元で、泰治さんは埼玉の地から、そして敏郎さんは戦地で、それぞれがそれぞれの場所でご自身ができることをされました。たかさんのお話をお聞きして「故郷への想い」「人との繋がり」を強く感じたインタビューになりました。旧友から二年前に届いた同窓会の案内状には「新コロナ軍に白旗を揚げました。休戦協定が成立する迄・・・中止とします。」と書かれていました。(笑)新コロナ軍(新型コロナウイルス)が一日も早く終息して再会できますように。



私たちのグループでは「観光」に特に視点を置いた提案をさせていただきます。掛塚をお年寄りから小さな子供まで楽しめるような町にしていきたいと考えました。そこで、津倉邸の庭に「津倉カフェ」、元えびす屋に協力してもらい「スケボーパーク」などを開設したらどうかという話になりました。また「掛塚ウォークラリー」を開催し、私たちが案内していただいたコースを巡るという案でもでした。



私たち 6 年生で未来の電洋について考えさせていただきました。私たちの班では「人同士の絆」について提案します。

最近ではコロナウィルスなどの影響で人同士の会話・交流が少なくなり、ストレスを抱えている方も多いのではと思います。また障がい者の方とも、もっと触れあうべきなのではないのかと思います。是非、私たちの提案を形としていただきたいです。

昨年11月、当時の6年生が掛塚のまちを歩いて考えてくれたものです。7月17日(日)の公開日には他の人たちのアイデアも併せて展示します。

西小児童の考えに未来の電洋を元気にするするためのアイデア紹介！

会員・賛助会員・ボランティア会員募集！

「みんなと倶楽部・掛塚」は、湊町掛塚の歴史を刻んだ貴重な文化財を守り、郷土の文化遺産として後世に引き継いでいくことができるよう、旧津倉邸の維持管理に協力しながら、掛塚地区が活気のあるまちになるための活動を展開していこうと考えています。私たちと一緒に活動していただける方を募集しています。是非、ご参加ください。



正会員

運営・企画に携わっていただきます。年会費 3,000 円をお願いします。

賛助会員

会を側面から支えて頂きます。会への行事も自由にご参加ください。1口 1,000 円の年会費となります。

ボランティア会員

会の事業・イベントに、いつでも気軽にご参加ください。会費はありません。小・中・高校生の方も気軽に参加してください。

振込先はこちら

静岡銀行 電洋支店 普通預金
口座番号 0418125
名義：みんなと倶楽部掛塚 代表 池田藤平
ゆうちょ銀行 店番 238 普通預金
口座番号 5027208
名義：みんなと倶楽部・掛塚

まち歩き、そして旧津倉家見学会

5月2日(月)は電洋西小学校から、掛塚のまち歩きと旧津倉家見学の依頼がありましたので、私たち「みんなと倶楽部 掛塚」の会員がその案内を引き受けさせていただきました。午前9時40分からは6年生3クラス、午後12時40分からは3年生2クラス、そして3時半からは教員たちのまち歩きとなりました。ほぼ1日を費やすことになりましたが、子供たちにも先生たちにも、掛塚が湊町として栄えた歴史を知り、次の世代に語り継いでいただきたいというのが私たちの願い。五月晴れの好天にも恵まれ、疲れよりも充実感を感じる1日となりました。

記事 斉藤朋之



貴船神社からまち歩きスタート



旧津倉邸の見学

7月のイベント情報

7月 16日 土曜日 17日 日曜日

旧津倉邸公開

掛塚湊の歴史を伝える旧廻船問屋津倉邸の公開をいたします。

当会のメンバーが建物の歴史や廻船にまつわる話等を交えてガイドいたします。

お雛子の演奏、ミニコンサート、まち歩きや展示会なども予定されています。お店も出ますので是非、お越し下さい。

● 公開時間
午前10時から午後三時まで

